

～笑顔で男女（みんな）が共に輝くあさぎり町～
令和2年度
男女共同参画に関する町民意識調査報告書

調査の概要

1. 調査の目的

あさぎり町では、男女が互いの人権を尊重しつつ責任も分かち合い、性別にかかわらず、その個性と能力を十分に発揮することができる男女共同参画社会の実現を目指し、その形成に向けた取組みを推進しています。

男女共同参画に関する町民の意識や実態の変化を分析し、現状とこれからの取り組む課題を把握するとともに、男女共同参画推進基本計画を見直すための基礎資料として活用し、今後の男女共同参画を効果的に推進することを目的として実施しました。

2. 調査設計

(1) 調査対象地域

あさぎり町全域

(2) 調査対象

町内に在住する18歳以上の男女1,500人

(3) 調査対象者の抽出方法

住民基本台帳から無作為抽出

(4) 有効回収率

35.6% (回収数534通)

(5) 調査方法

送付：配達員を通じ届ける（一部郵送） 返信：受取人払郵送

(6) 調査期間

令和2年12月15日～令和3年1月15日

3. 調査項目

- (1) 回答者について
- (2) 社会参画について
- (3) 家庭生活全般について
- (4) 仕事、家庭、地域活動の両立について
- (5) 配偶者などからの暴力について
- (6) 男女共同参画の推進について
- (7) 男女共同参画に関するご意見やご要望

調査結果の概要

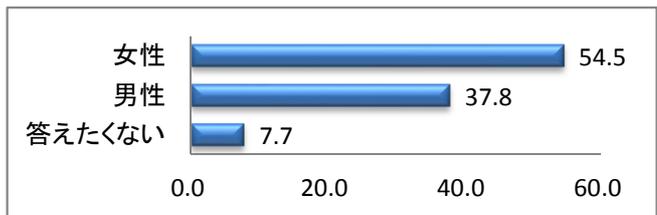
あさぎり町の男女共同参画に関する町民意識調査については、住民基本台帳から無作為抽出した1,500の方に12月15日に発送し、1月15日で締切り集計しました。

534通の返信があり、回収率は35.6%となっています。なお、今後更にすべての調査結果の分析を詳細に進め、最終的には調査の結果を反映した今後の取組みの糧となるように調整したいと考えております。

回答者について

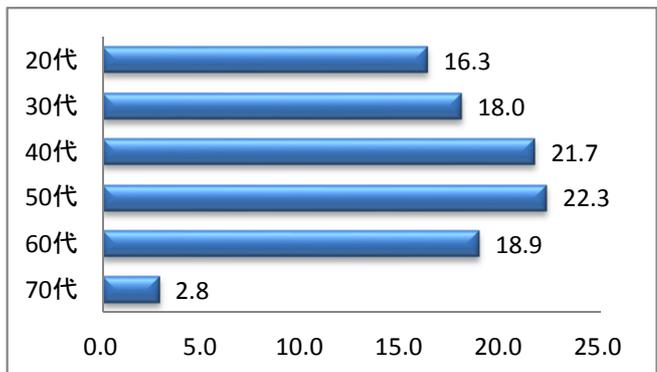
(1) 性別

男女の割合は、「女性」54.5%、「男性」37.8%、「答えたくない」7.7%女性の割合が高い結果となりました。



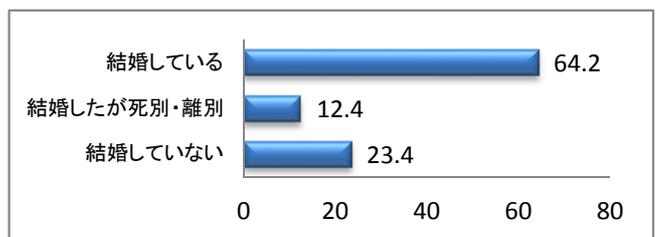
(2) 年齢

年齢構成では40～50歳代の回答率が高いものの、前回調査からすると20代～30代の回答が増えてます。



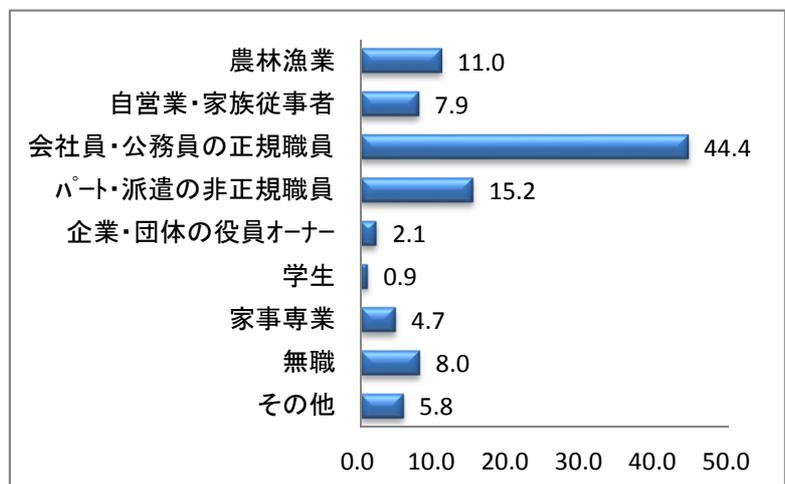
(3) 婚姻状況

「既婚」が64.2%、「離・死別」が12.4%、「未婚」が23.4%となっています。



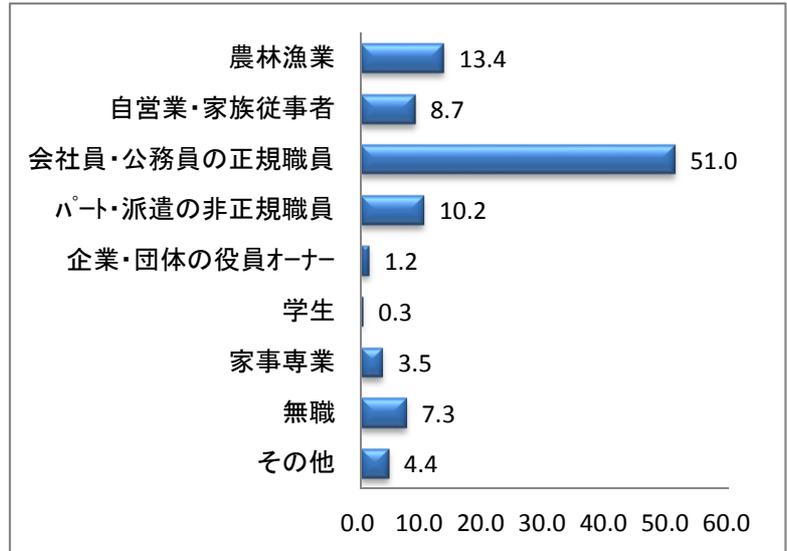
(4) 職業（本人）

職業別では、会社員・公務員が4割程度になっていますが、次に多かったのはパートや派遣の非正規労働者が続いています。



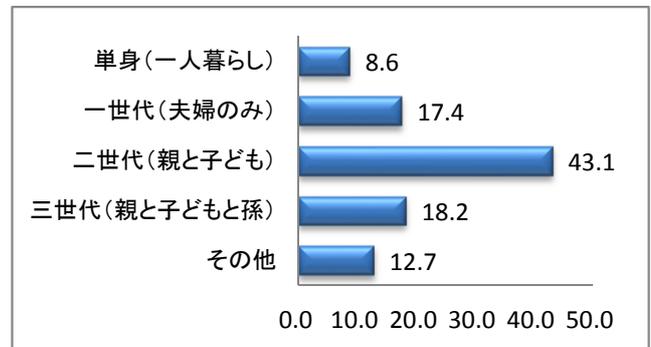
(5) 職業（配偶者）

職業別では、会社員・公務員が5割程度になっていますが、次に多かったのは農林漁業が続いています。



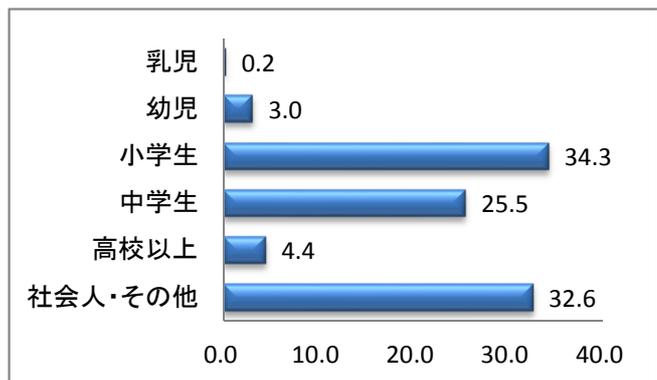
(6) 家族構成

家族形態については、「親と子（二世帯世帯）」が43.1%と最も多く、次いで「親と子と孫（三世帯世帯）」が18.2%、「夫婦のみ（一世帯世帯）」が17.4%と続いています。



(7) 子ども

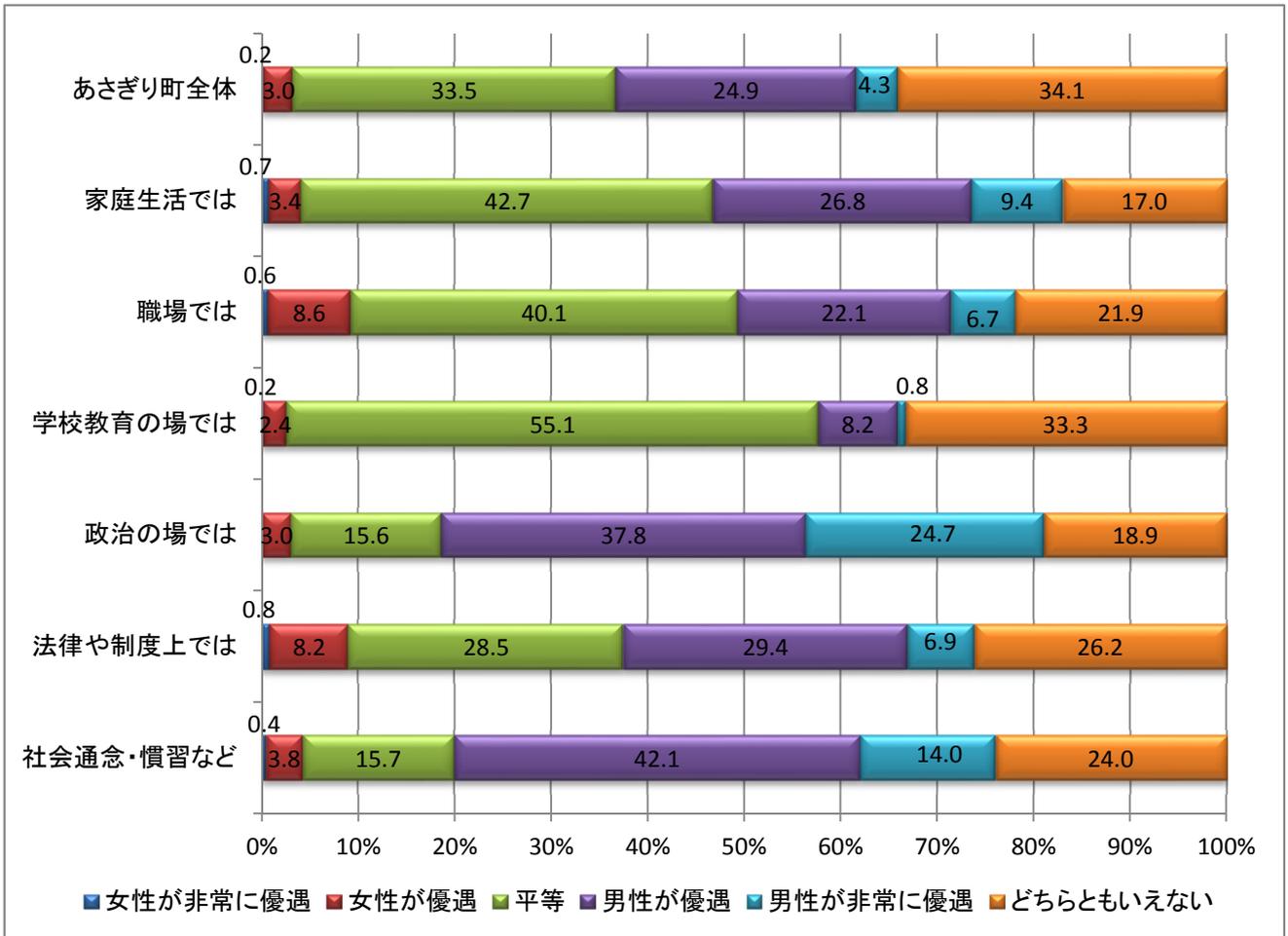
子どもの年齢については、小学生、中学生が6割程度となっています。



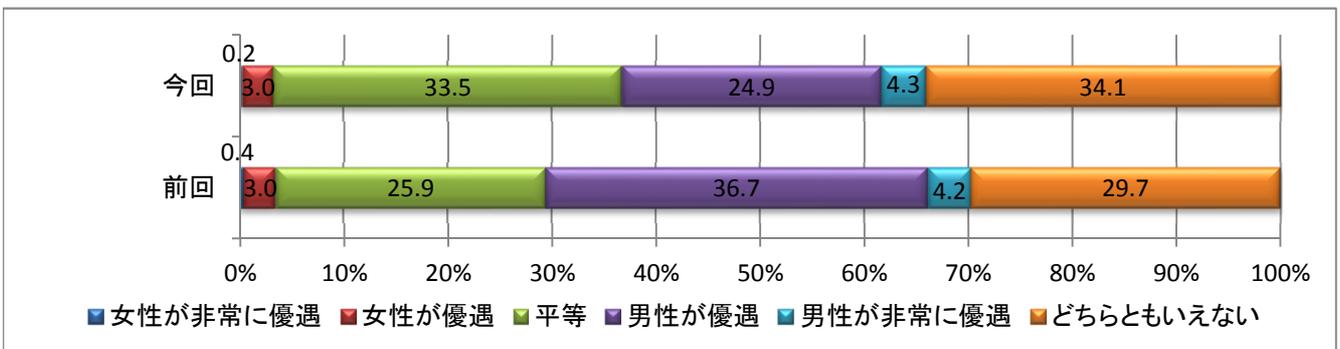
社会参画について

1. 男女平等について

あさぎり町全体で見た場合、男女の地位について、「平等である」と回答した人の割合が33.5%、次いで「男性が優遇されている」の回答が29.2%となっています。
 分野別に見ると「男性が優遇されている」と回答した割合が多くなっているのが「政治の場」で62.5%、次いで「社会通念・慣習等」で56.1%となっています。
 前回と比較すると、あさぎり町全体で「男性が優遇されている」と回答した人の割合は減少傾向にあります。



＜あさぎり町全体：前回（H28.10）との比較＞



2. 性別による固定的役割分担の考え方について

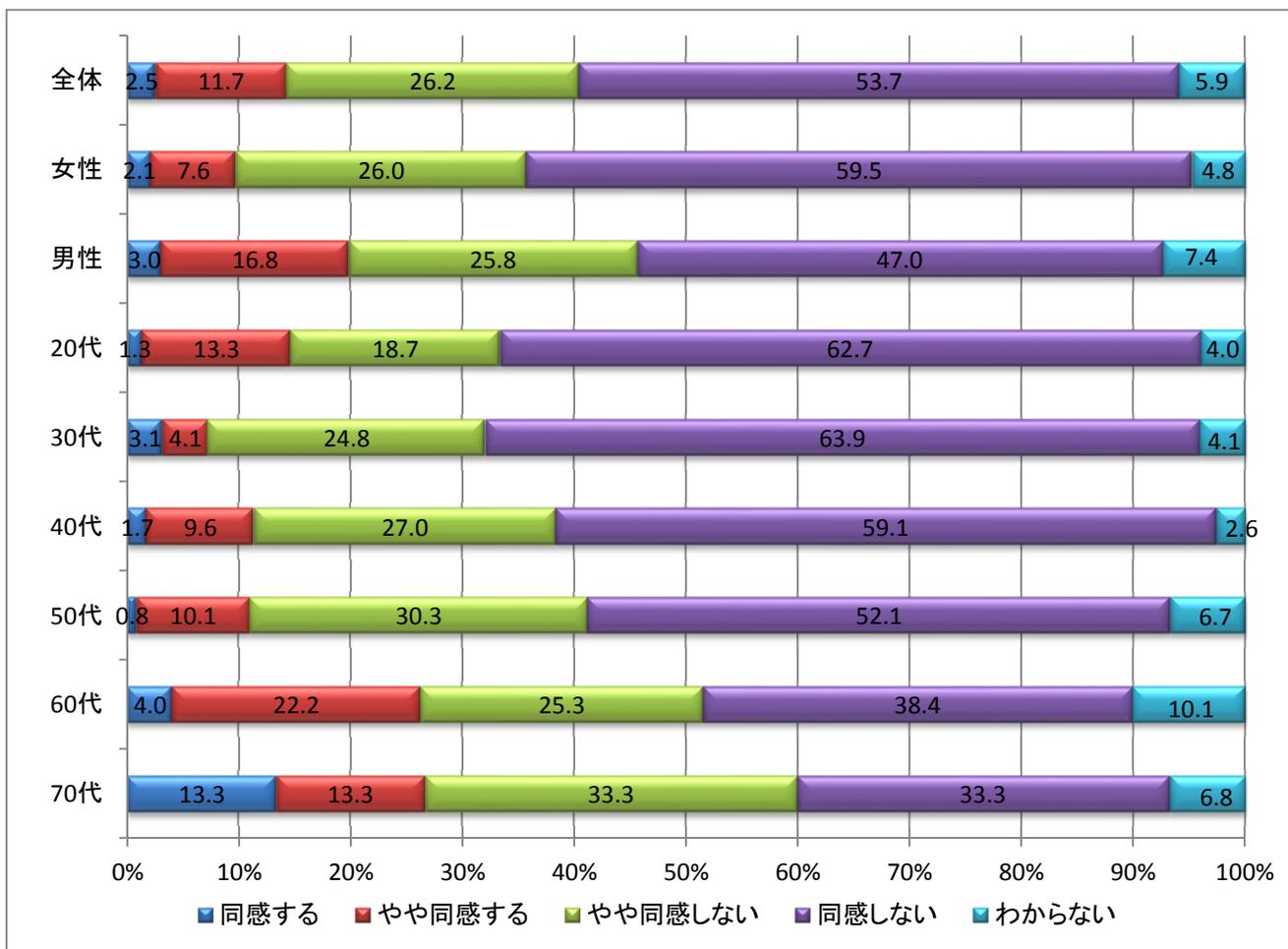
『男性は仕事、女性は家庭』という性別によって役割を固定する考え方については、あさぎり町全体で「やや同感しない」「同感しない」を合わせると79.9%となり、「同感する」の14.2%を大きく上回っています。

性別で見ると「同感しない」と回答した割合は、女性に比べて男性が低くなっています。

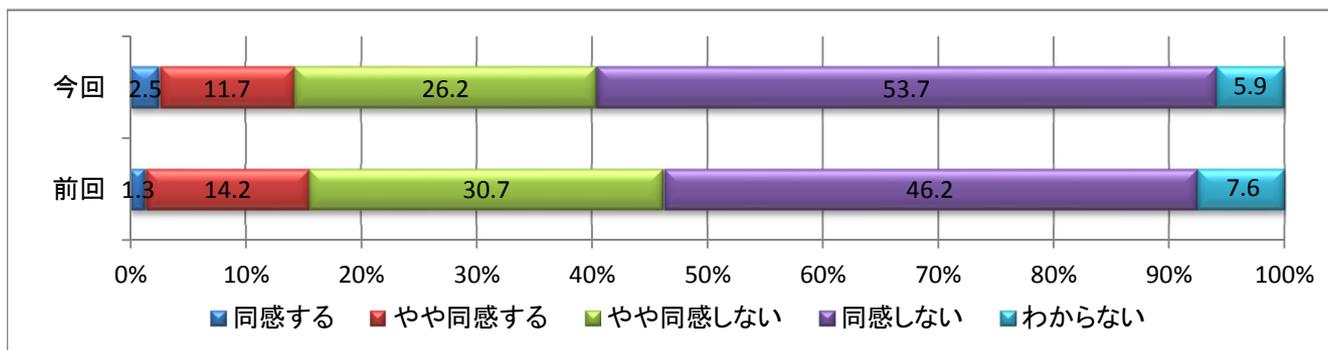
(女性：85.5%、男性：72.8%)

年代で見ると「同感しない」と回答した割合が高かった世代は30代で88.7%、次いで40代で86.1%となりました。

前回調査と比較すると、「同感しない」と回答した人の割合は増加傾向にあります。

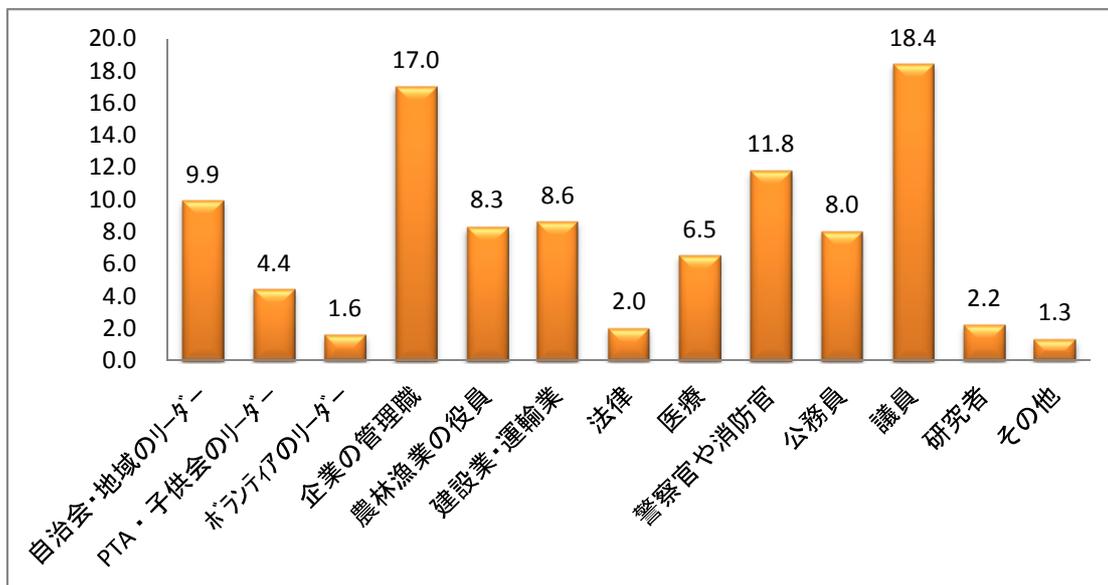


<あさぎり町全体：前回（H28.10）との比較>



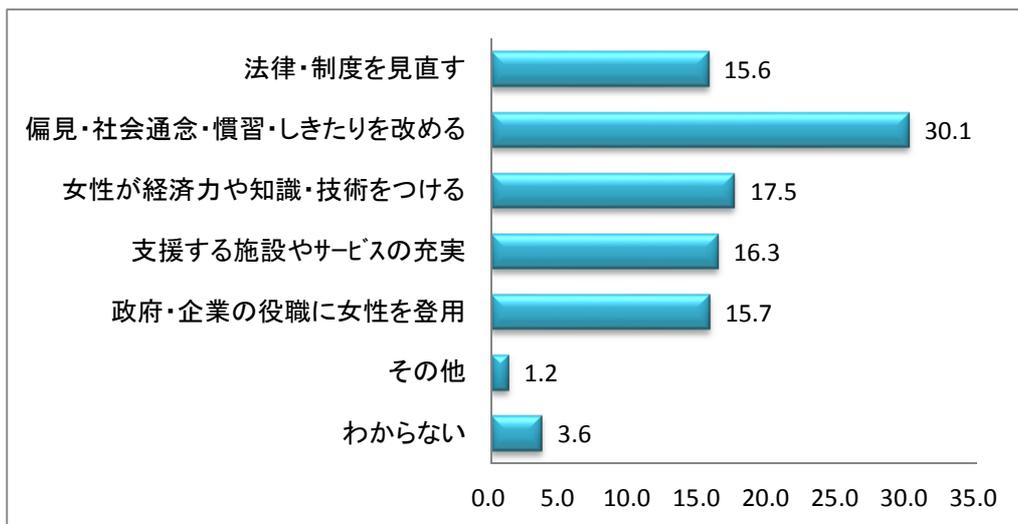
3. 女性の活躍する分野について

女性の活躍が進むのがよいと思われる分野については、「議員」「企業の管理職」という回答が多くなりました。また、建設業や警察官や消防官に女性の活躍を望む回答も多くなっています。



4. 男女があらゆる分野で平等になるために重要なことについて

男女平等に重要なことは、5年前の調査と同じく「偏見や社会通念、慣習・しきたりを改めること」が最も多く、「女性が経済力や知識・技術をつける」「支援する施設やサービスの充実」が続いています。



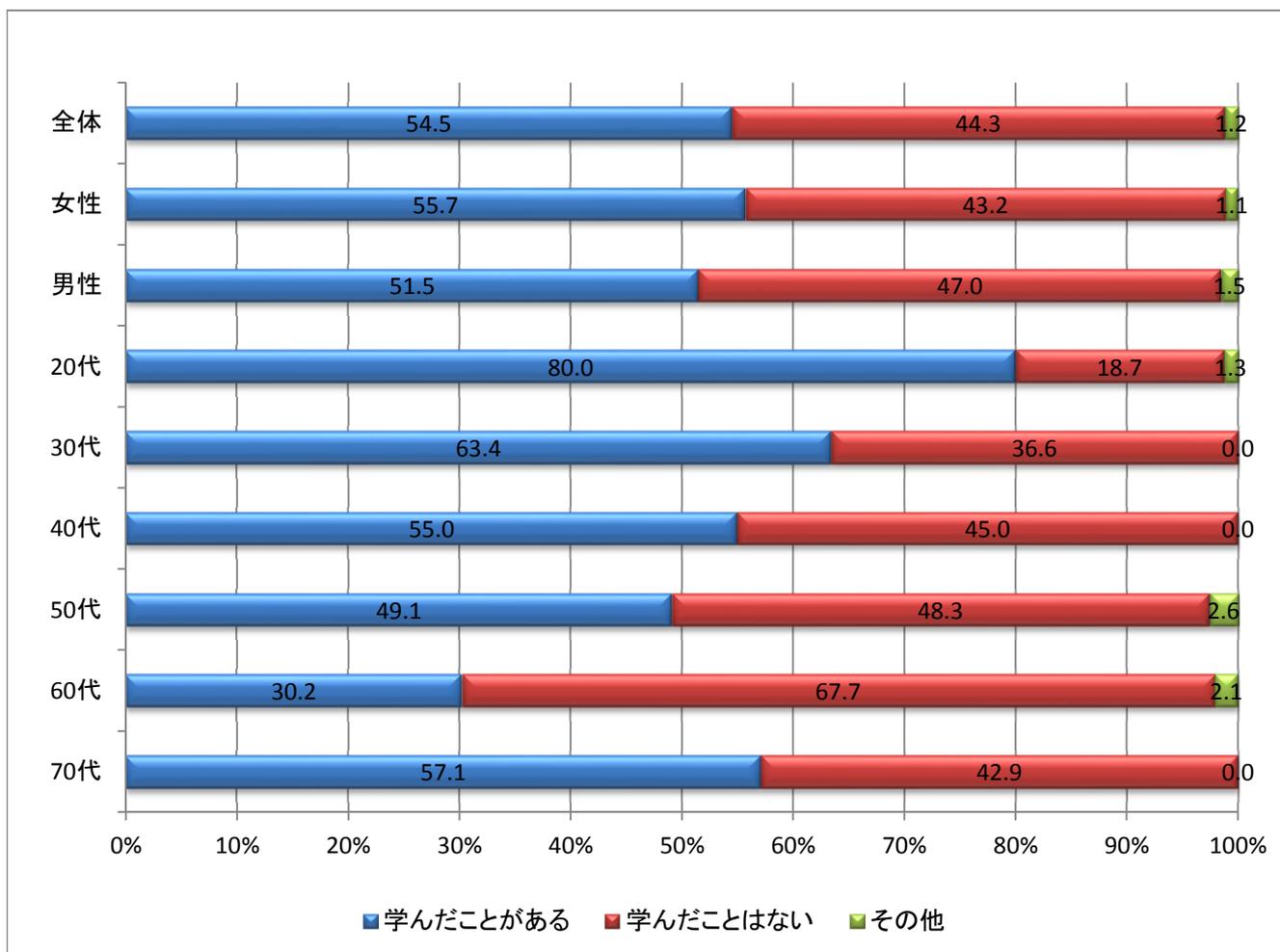
5. 男女共同参画の学びについて

男女共同参画について「学んだことがある」（54.5%）と回答した割合は、「学んだことはない」（44.3%）を上回っています。

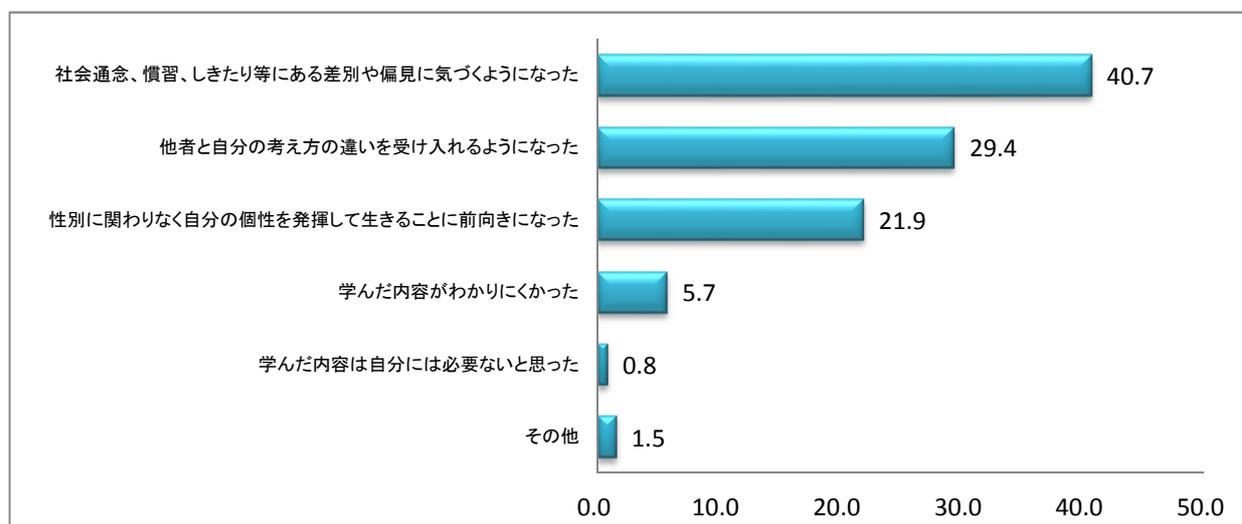
性別で見ると「学んだことがある」と回答した割合は男性に比べ女性が高くなっています。

（男性：51.5%、女性：55.7%）

年代別で見ると若くなるにつれて学ぶ機会が増えています。



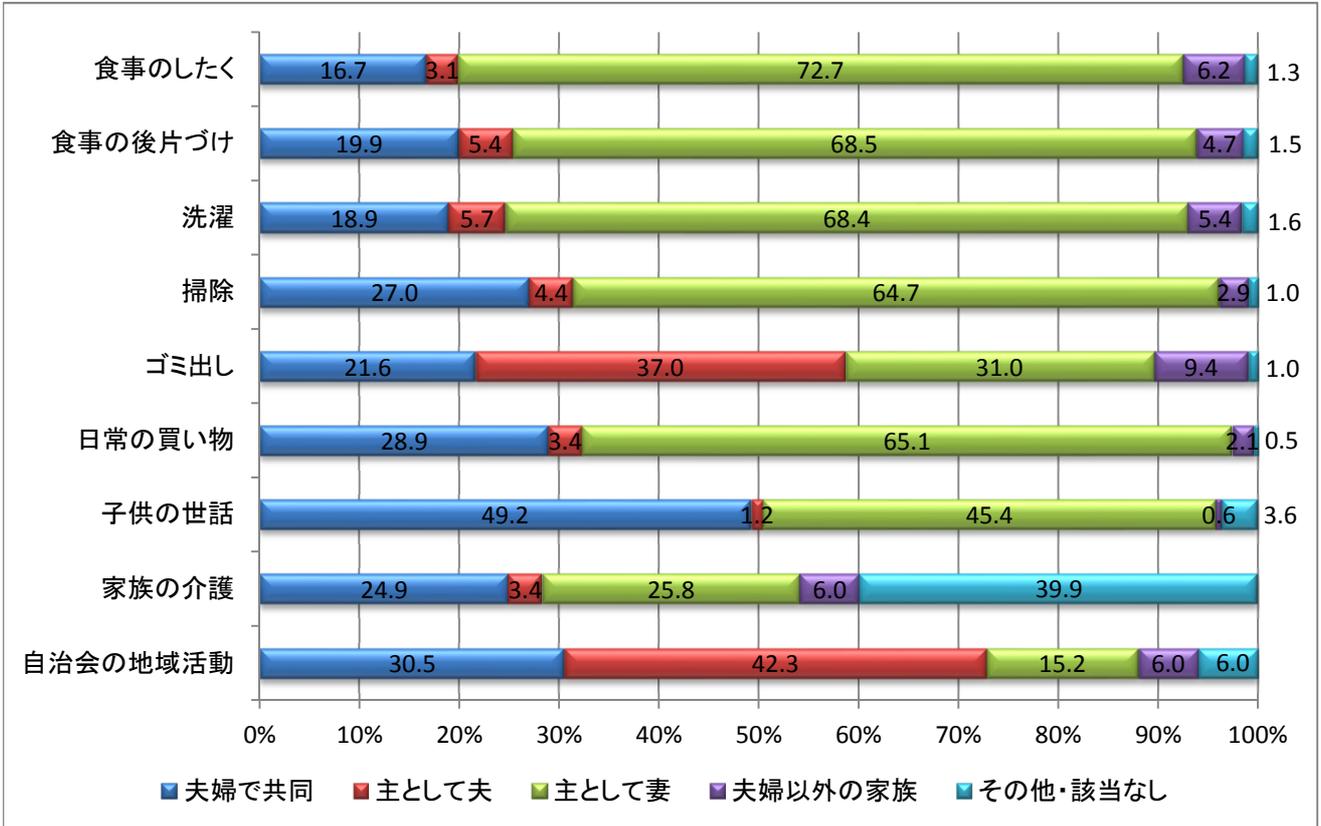
男女共同参画について学んだことにより、「社会通念、慣習等にある差別や偏見に気づくようになった」と回答した割合が40.7%、次いで「他者との意見の違いを受け入れるようになった」と回答した割合が29.4%と高くなっています。



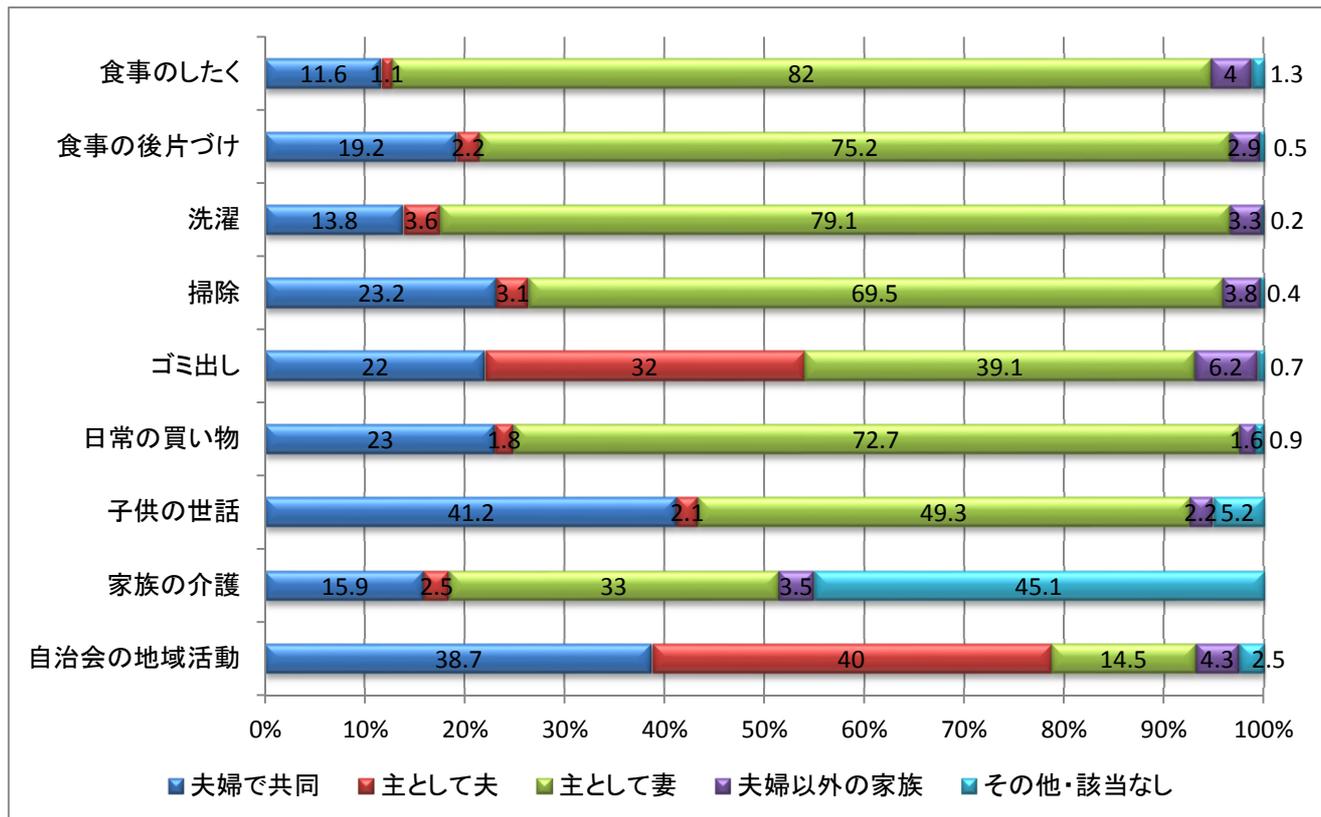
家庭生活全般について

1. 家庭生活の役割分担について

家庭生活の役割分担については、全般的に主として妻が担う部分が多く、これまでの設問で見られた社会での平等感の高まりとは反対に、家庭内では依然として女性の役割が多い結果となりましたが、5年前の調査と比べ、全体的に女性の役割が少し減少し、夫婦で共同、夫の役割が増えています。

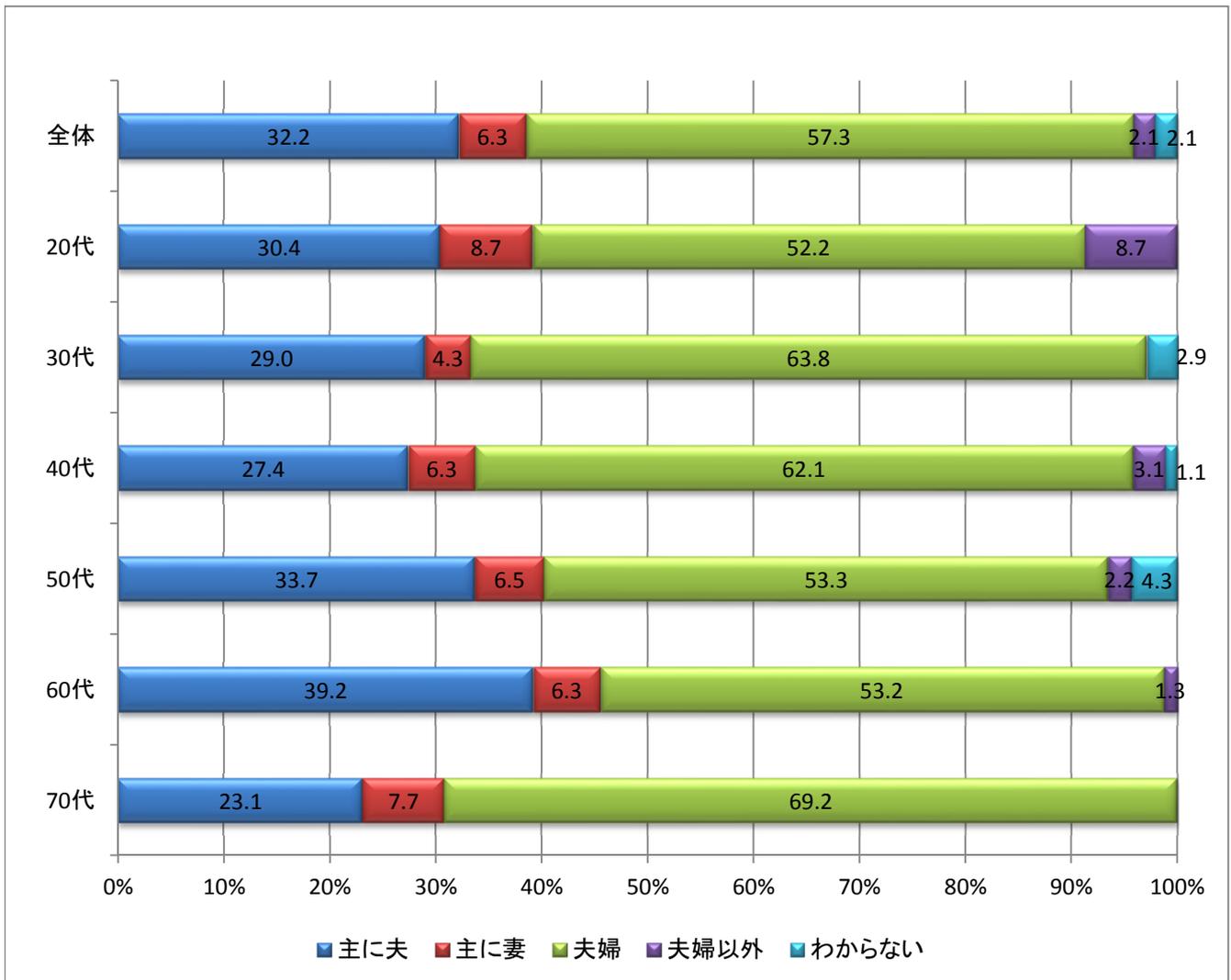


＜あさぎり町全体：前回（H28.10）との比較＞

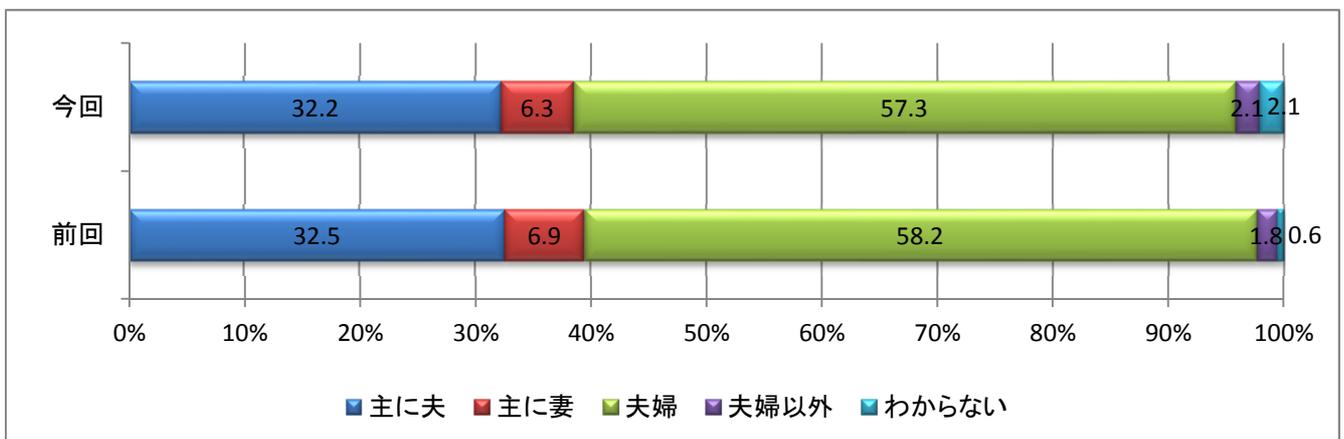


2. 家庭における重要な事柄の決定権について

家庭における重要な事柄の最終的な決定者については、前回の調査と同様、「夫婦」が57.3%と最も多い結果となりました。



<あさぎり町全体：前回（H28.10）との比較>

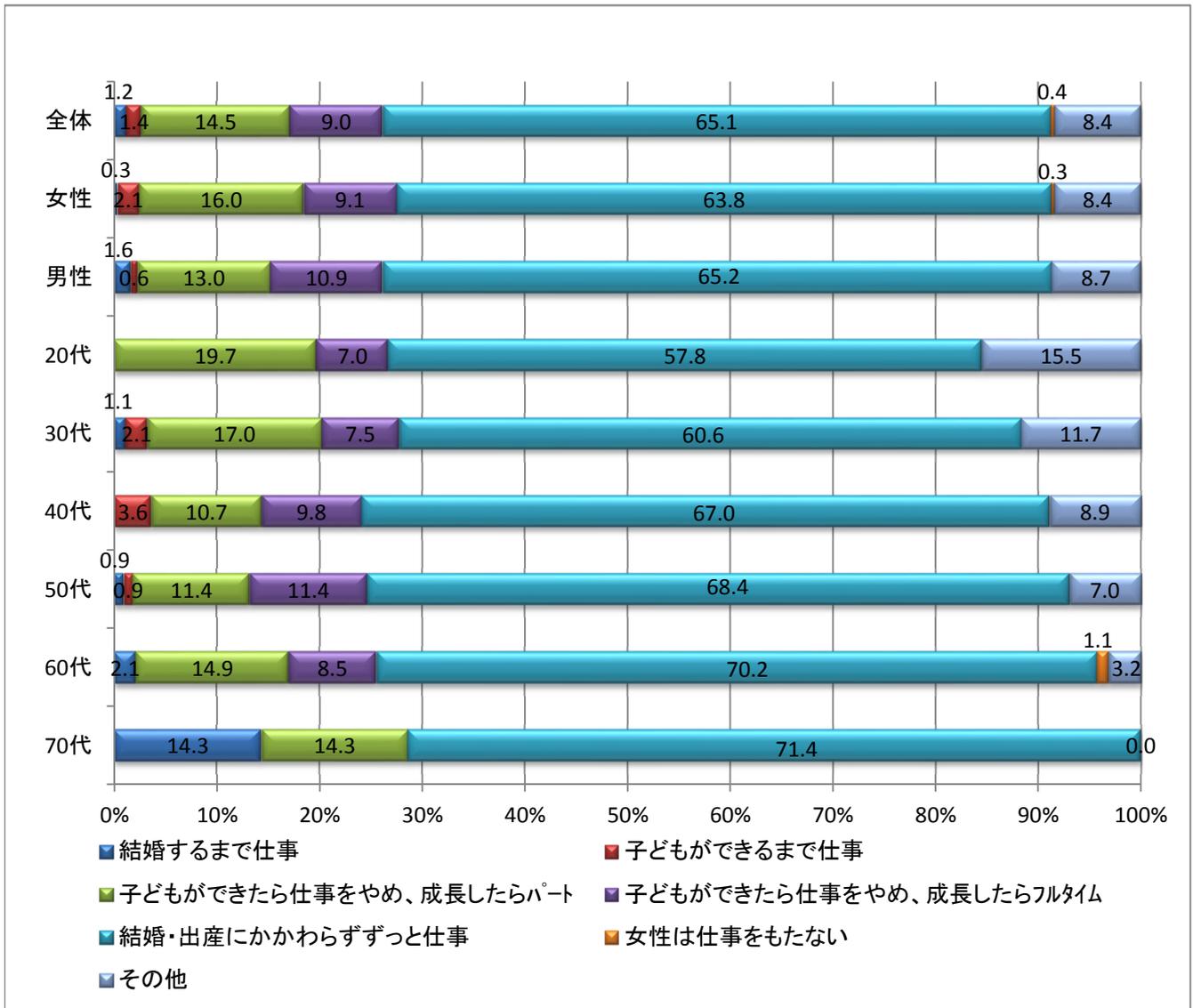


3. 女性の働き方について

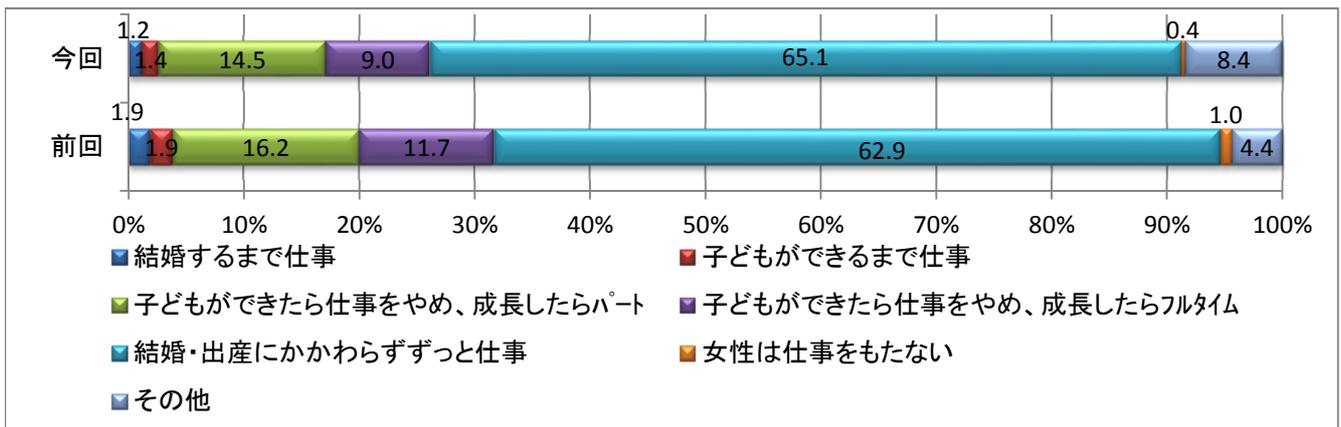
女性の就業について、あさぎり町全体で「結婚、出産にかかわらず、ずっと仕事を続ける方がよい」と回答した人の割合が65.1%と最も多く、「一度やめて再び就職」の23.5%と合わせると全体の8割を超えています。

男女共に「仕事を続ける方がよい」と回答した割合が6割を超え、「一度やめて再び就職」を大きく上回っています。

年代別では、全ての年代において「仕事を続ける方がよい」と回答した人の割合が最も多くなっています。

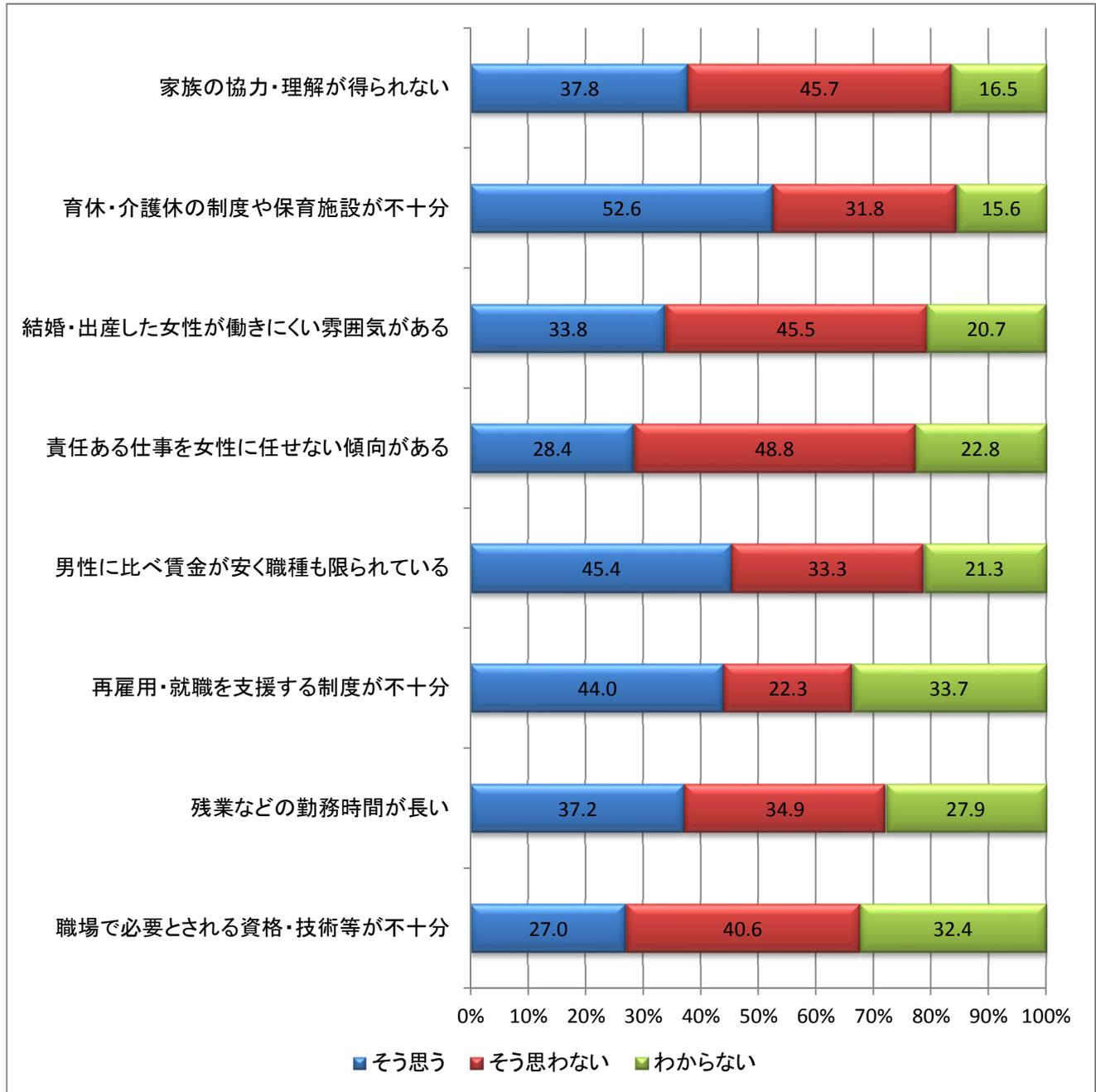


＜あさぎり町全体：前回（H28.10）との比較＞



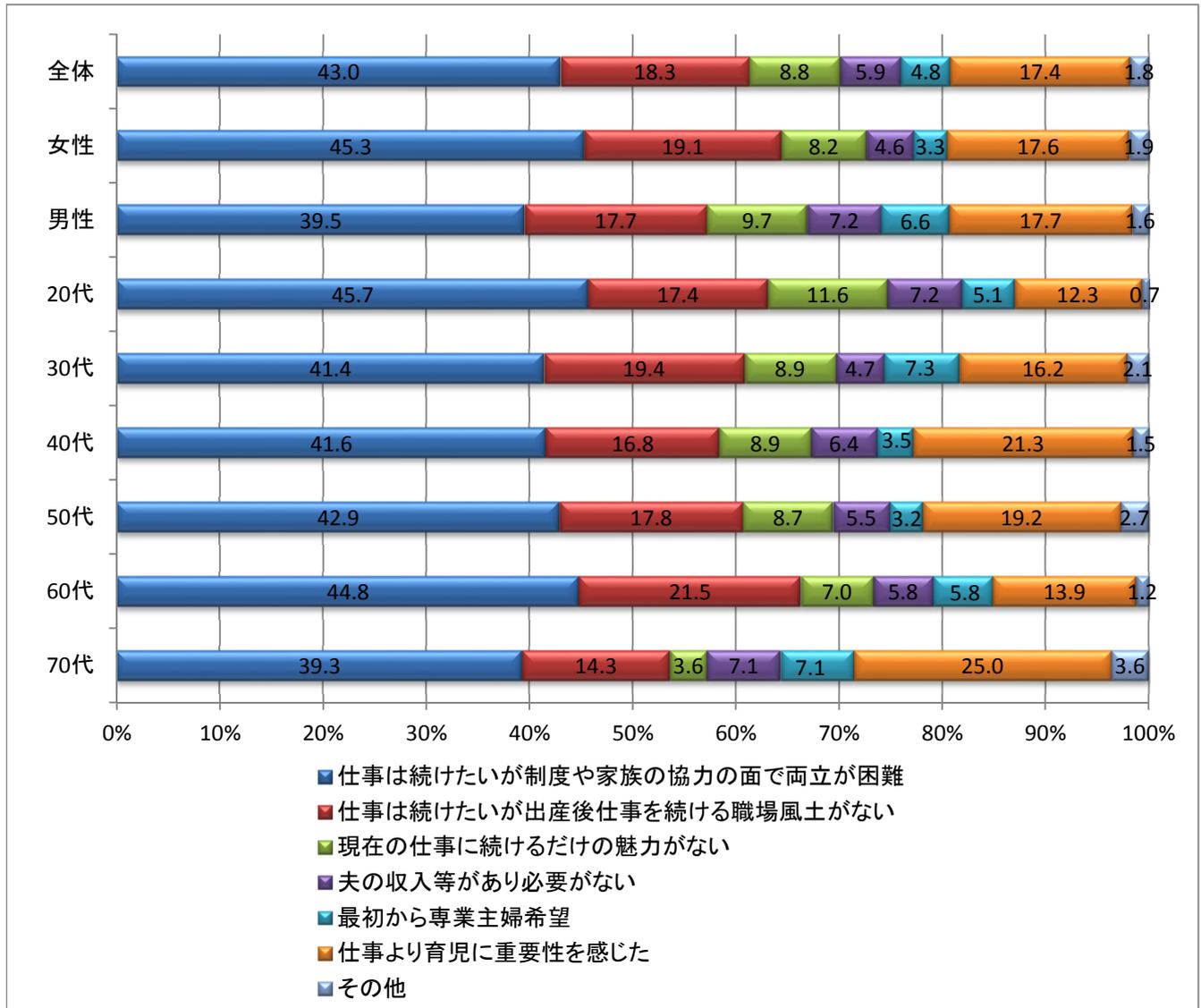
4. 女性が仕事を続けていく上で支障となっているものについて

女性が仕事を続けていく上で支障となっていることは、「育児休暇や介護休暇の制度や保育施設が不十分」「男性に比べ賃金が安く、職種も限られていること」「再雇用や再就職を支援する制度等が不十分」といったものを『そう思う』という回答が多くなりましたが、「家族の協力や理解が得られない」「職場に結婚・出産した女性が働きにくい雰囲気がある」「責任ある仕事を女性に任せない傾向がある」については『そう思わない』という回答が多くなりました。

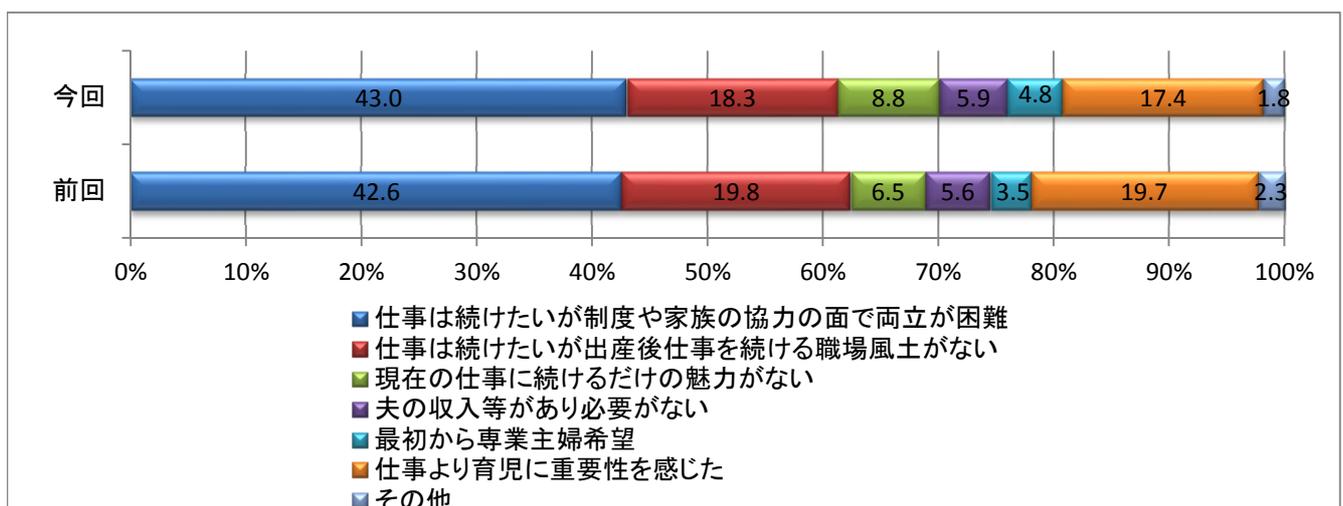


5. 第1子出産を機に離職する女性が多いことについて

第1子出産を機に離職する女性（いわゆる『M字カーブ』）が多いことについては、「仕事は続けたいが、制度や家族の協力の面で育児と仕事の両立が困難だと思う」という回答が43.0%と最も多く、前の『女性が仕事を続けていく上で支障となっている』設問で回答が多かった「育児休暇や介護休暇の制度や保育施設が不十分」「再雇用や再就職を支援する制度が不十分」といったものを裏付ける結果となりました。



<あさぎり町全体：前回（H28.10）との比較>



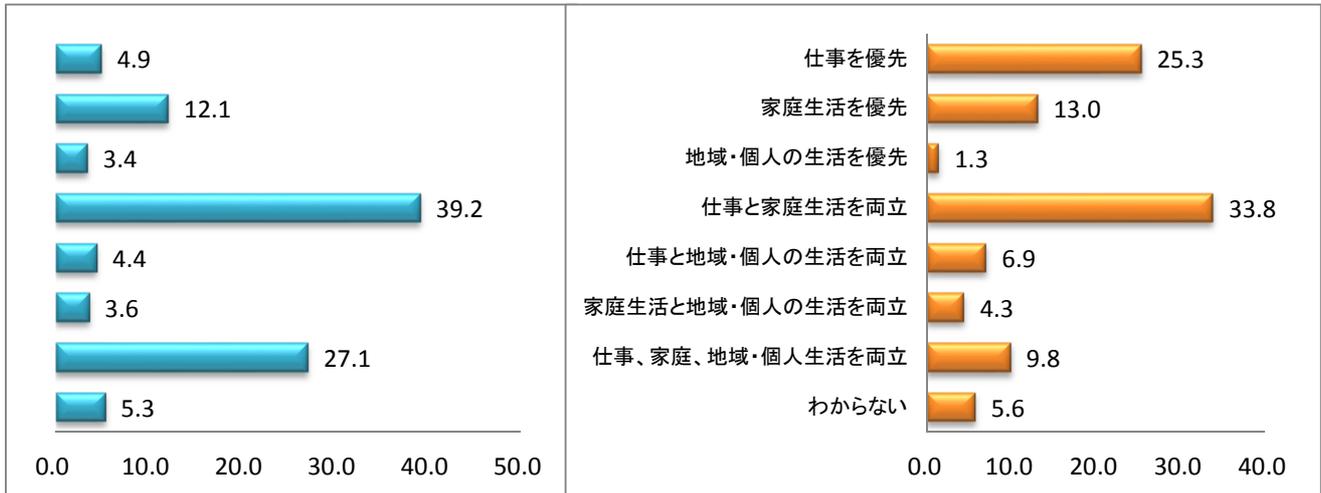
仕事、家庭、地域活動の両立について

1. 仕事、家庭生活、地域・個人の生活の両立に関する希望と現実

希望としては「仕事、家庭生活を両立したい」が39.2%に対し、現実での割合も33.8%と最も高く、「仕事、家庭、地域・個人生活を両立」は希望が27.1%に対し、現実では9.8%と低くなっています。

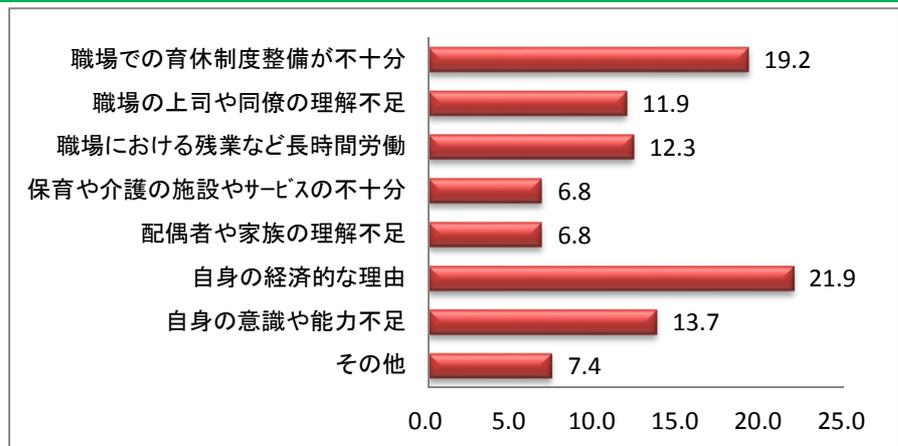
【希望】

【現実】



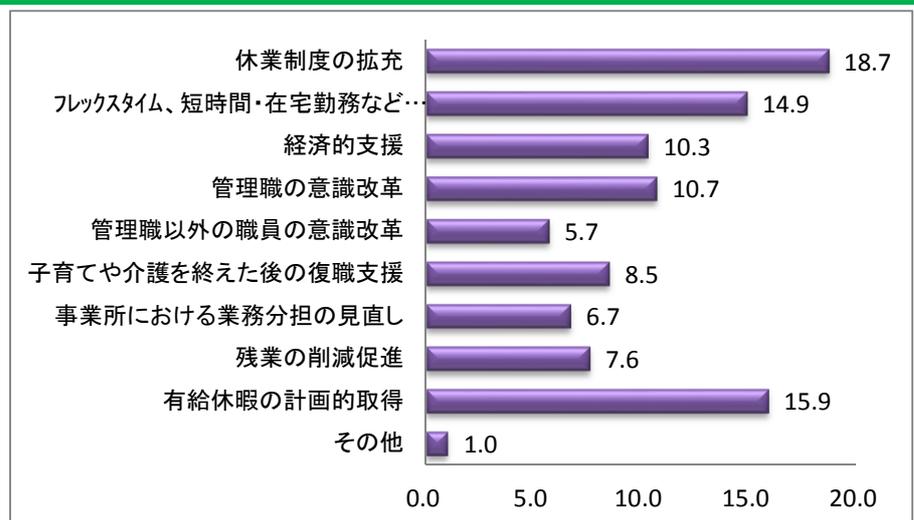
2. 「希望」と「現実」が異なる理由について

「希望」と「現実」の異なる理由については、『自身の経済的な理由』が最も多く、次いで『職場での育休制度整備が不十分』『自身の意識や能力不足』が続いています。



3. 仕事と生活の調和（ワークライフバランス）を推進するための取組みについて

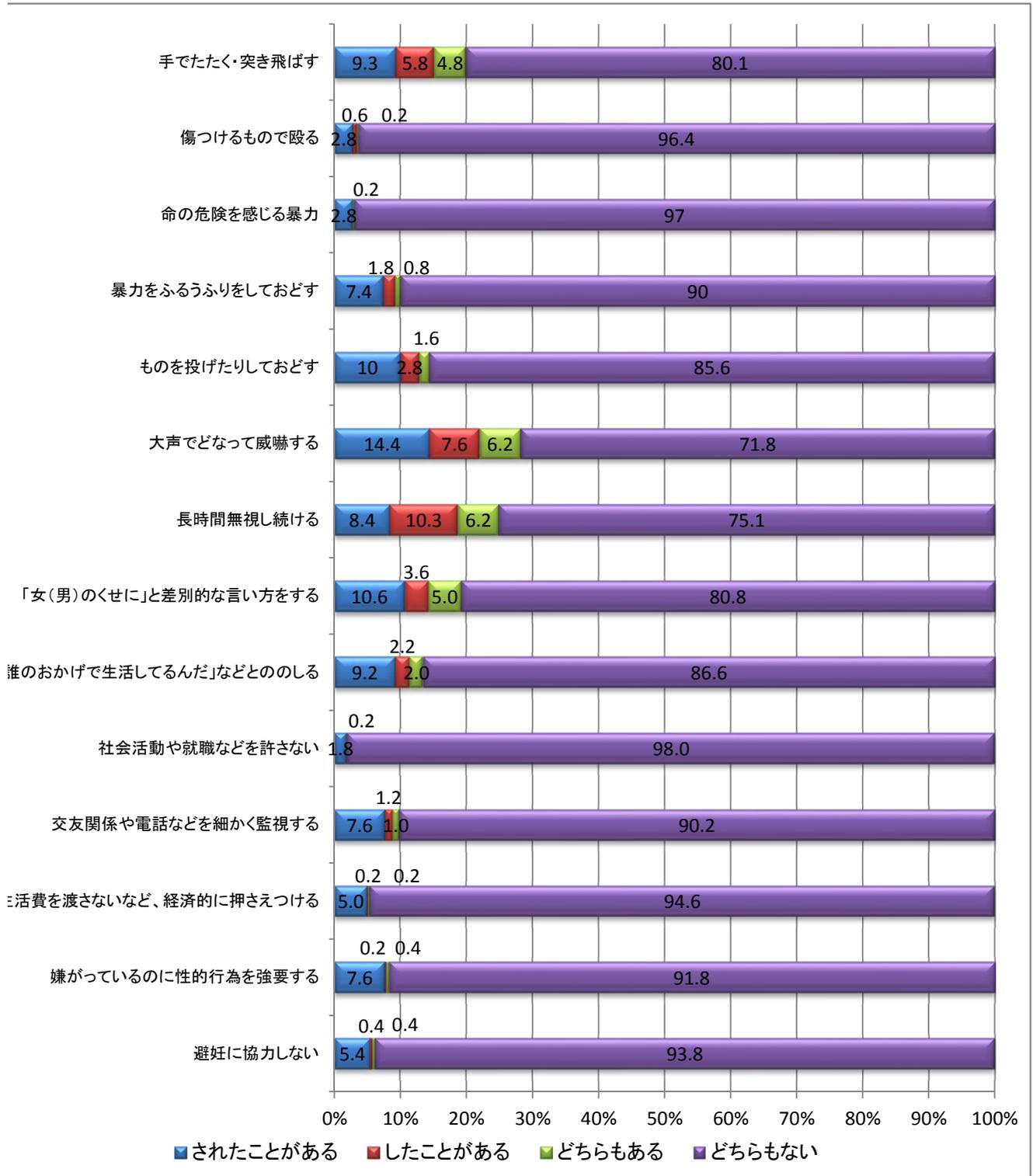
「仕事と生活の調和（ワークライフバランス）」については、「育児や介護などの休業制度の拡充」が大切との回答が18.7%と最も多く、「有給休暇の計画的取得」や「フレックスタイム、短時間勤務、在宅勤務などの柔軟な勤務形態」も大切との意見が続いています。



配偶者などからの暴力について

1. 配偶者などからの暴力について

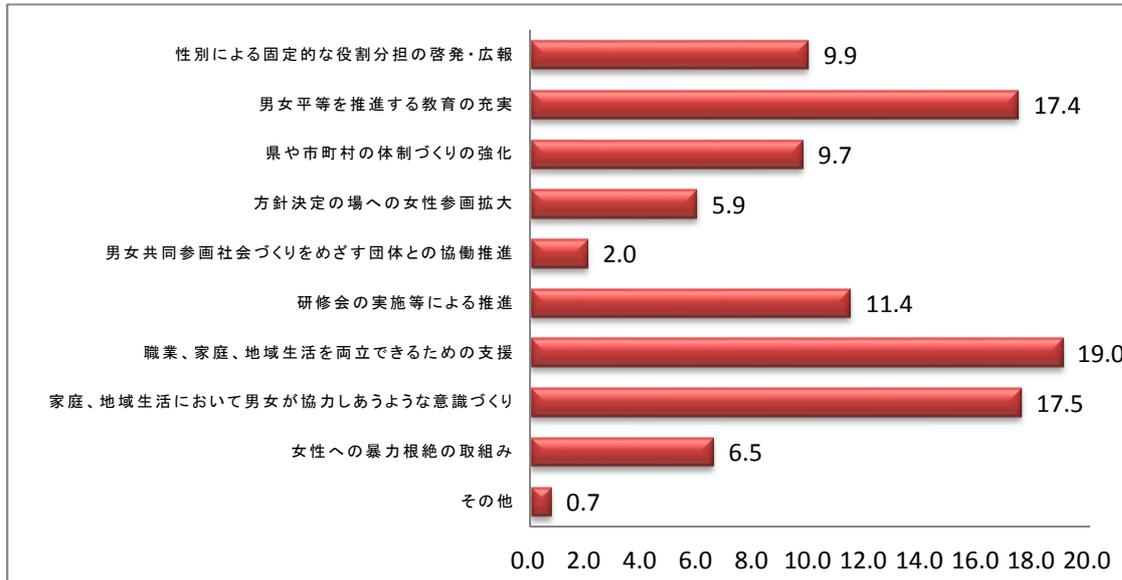
配偶者などからの暴力については、全体的にされたこと、したこと、どちらもないが多かったものの、「大声でどなって威嚇する」「長時間無視し続ける」などの暴力が見受けられました。



男女共同参画の推進について

1. 男女共同参画社会を形成するために力を入れるべき施策について

「職業生活と家庭・地域生活を両立できるための支援」と「教育の充実」「男女が対等に協力しあうような意識づくり」が上位を占めています。



2. 大規模災害に備えた「男女共同参画の視点」から見た取組みにつ

「災害時のニーズは男性と女性・年齢・病気の有無などで異なることを認識し、多様性に対応した物資の備蓄、相談や支援体制を整備する」が最も多く、次いで「要配慮者への対応においても、男性と女性の違いに考慮した避難や支援体制を整備する」となっています。

